

オンライン授業の「資産」活用のすすめ

2020年度前期に全授業が急遽オンライン形式で実施され、2021年度現在も対面授業と組み合わせてオンライン授業は実施されています。ただ、このオンライン授業はオンラインという形式に適合して準備された授業ではなく、緊急事態における対処法として一時的にオンライン形式に移ったという点で、本来のオンライン授業とは区別して考えるべきだという指摘^(*)があります。確かに、現在の状況が解消されれば、授業の実施形態は基本的に元に戻されるかもしれませんが、しかし、オンライン授業の併用はもう少し続けなければならない状況にあります。また、オンライン授業の準備にあたり、教材の作成やツールの使用方法の習得にはかなりご苦労されたと思いますので、これを資産として今後の授業にも継続して活用できたら、その苦労も報われるのではないのでしょうか。そこで今回は、緊急のオンライン授業について見直してみるとともに、「資産の活用」について考えてみたいと思います。

オンライン授業では、「対面での授業をそっくりそのまま」とは考えないことが重要です。90分の対面授業全てをオンラインで実施するとかなりの通信データが発生し、学生が契約する通信回線のデータ容量を大きく消費させてしまったり、特定の時間帯に学生のアクセスを集中させて大学や世の中の通信回線を圧迫することになるかもしれません。この問題に対して、どのように授業を設計したり実施すべきかの指針が、国立情報学研究所から提言されています^(*)。下記は、その要点の一部です。

- 授業を「教員主体（座学など一方向の情報伝達）」の部分、「学生主体（1人で問題を解くなど）」の部分、「教員と学生双方向のやり取り」部分に分ける

- Blackboard Collaborate Ultra (Collaborate)やZoomなどのビデオ会議サービスを用いて同期型で実施するのは、双方向部分に限る
- 教員主体の部分は収録しておき、学生には各自で事前に視聴させる

つまり、同期型と非同期型の授業を組み合わせ、同期型授業は議論をする時間のみに限る、あるいは質問がある時だけ参加してもらうなどといった方法です。

同期型と非同期型の組み合わせは、対面授業にも活用することができます。教員主体の部分をLMSに掲載しておけば、学生が復習したり欠席時に自習する際の有用な教材になります。こうした教材となりうる動画や音声は、2020年度の授業ですでに作成されているのではないのでしょうか。また、緊急事態が続く現在、発熱で通学できなくなった学生などへの対応で、多様な授業参加の方法を用意するべく、現在もご苦労されている先生もいらっしゃると思います。そのような学生に向けて対面授業をビデオ会議サービス上でも同時に配信し、その授業を動画に記録すれば、復習や自習の教材の素材ができていきます。なお、Collaborateは動画の記録だけでなく配信の機能^(*)も持ちますので、Collaborateで授業をすれば動画のアップロード作業なしでLMSへの掲載が可能です。

現在の対面授業とオンライン授業が混在しているこの状況は、学生の立場からは学びの選択肢が増えていくという見方をすることもできます。これまでのオンライン授業のご苦労を資産に変えて、今後の授業にぜひご活用下さい。

(*) Hodges, C., Moore, S., Lockee, B., Trust, T., & Bond, A. (2020). The Difference Between Emergency Remote Teaching and Online Learning. *EDUCAUSE Review*.

<https://er.educause.edu/articles/2020/3/the-difference-between-emergency-remote-teaching-and-online-learning> (2021年6月アクセス)

(*) 国立情報学研究所。データダイエットへの協力をお願いします：遠隔授業を主催される先生方へ。

<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/tips.html> (2021年6月アクセス)

(*) 裏面のLMS Tipsをご参照下さい。

LMS活用事例レポート

学生ユーザとの座談会 オンライン授業版



今回は、情報電子工学科（情報）、地域経済学科（地域）の4人の学生に集まってもらい、オンライン授業についての座談会を開催しました。

LT オンライン授業で勉強してどうでしたか。

地域学生 学科によって違うと思いますが、オンラインになって先生が出席の代わりに課題をたくさん出すようになって大変でした。

情報学生 私の学科では、それほど課題が多いという印象はなかったです。Collaborateに出ていると出席扱いになるので。

LT もともとLMSで授業をやっていた先生だったら、オンライン授業になったからといって、あまり授業のやり方を変えていないんじゃないかなと思いますね。そういう違いかな。

情報学生 私も特に負担になるくらいまで課題が多いとは思わなかったですね。

地域学生 全然違いますね！

LT オンライン授業だと勉強しやすかったなとか、逆にこれだとちょっと勉強進めるのがなかなか難しいなとか、ありましたか。

情報学生 大変だったのは、1本1本の動画の時間が長い授業！長いとついつい後回しにしちゃう。1本50分くらいあったので....

LT 普通に対面で講義を聴く50分と動画で観る50分って違うよね。

情報学生 今年度、対面授業でもスライドで講義される先生の授業を受けていると、去年はインターネットで授業が受けられたのに、わざわざ対面じゃなくてもできるのにな、と思ってしまいます。

LT そうだね、オンライン授業を1度経験して、対面に戻ったときにオンラインでも良かったんじゃないの、という気づきとかあるかもしれないね。これは先

※「学生ユーザとの座談会」全文は以下のURLからご覧いただけます。

http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/activity/newsletter/newsletter53_LMS-use-case-report.html

LMS Tips

- ◆ 同期型オンライン授業を記録して配信する
- ◆ 教員自身でコースに学生や他の教員を登録する

※上記のTipsをクリックすると詳細が開きます

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。（<http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>）

生も同じかもしれない。

情報学生 私は、スチューデント・アシスタント(SA)をオンライン授業になる前と後の両方やっていたんですが、SAでは、進捗が見えるので対面の方がやりやすいなというのはありました。いちいちチャットで今どこまで進んでいますかって確認するのも結構大変。

LT 友人との関係もあるかもしれないけど、Collaborateでのグループワークでは、みんなカメラをオンにしないよね。何でなんだろう。

地域学生 私は顔を出さないほうが緊張しなくていいから、カメラオフのままの方が喋りやすかったです。カメラはハードルが高い。

情報学生 対面の方がグループワークがやりやすいと思うけど、カメラオフの方が喋りやすいっていうのは、面白いね。

LT オンライン授業になったり、対面授業に戻ったりしていますが、今後どんな授業をしてもらえると勉強しやすいいと思いますか。

情報学生 私はオンラインのままが良いな、と思います。家から大学までが遠いので、通学だけで体力と時間が奪われちゃうんですよね。対面授業に戻って、実質勉強に当てる時間が減ってます。オンラインだと自分のペースで勉強できていたのが、対面だと必ず90分間拘束されてしまうのが大変だなと思います。

情報学生 私も自分のペースで勉強できていた授業がなくなったのはきついですね。ある授業では、対面とオンラインを併用してくれていたの、自分が受けた方法で受けられてよかったです。

今回は、学生にオンライン授業を振り返ってもらい、実際の学習状況や感想を聞くことができました。

オンライン授業を経験して、オンラインと対面それぞれの良さにも気がつく機会になったようです。どちらも良い点があり、オンラインと対面を併用して学生が受けた方法で受けられるようにしている授業も始められています。教員と学生にとってより良い授業のために、LMSの活用を考えていければと思います。

編集後記

マスク生活2年目の夏！少し動いて汗をかいてもマスクの為か喉の渇きはあまり感じず“熱中症？”という状態に！「あ！いけない!!」と思って、水分補給をしますが、こう暑いとどれだけ飲めばいいのやら...？皆様は、熱中症対策や体調管理をどうしていますか？（渡部）

帝京大学 ラーニングテクノロジー開発室 宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 203室

◇連絡先：TEL 028-627-7243（直通） / Mail LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇室員：渡辺博芳(室長)、古川文人、小島一晃、宮崎誠、高野芳恵、渡部里美、梶原裕加、鈴木邦江、萬谷美紀

